

会派視察報告書

大崎市議会 政務活動概要報告書平成29年12月13日 提出

1. 視察概要

会派名	おおさき市民会議
視察者名	相澤孝弘・相澤久義・市民協働推進部廃棄物対策担当主幹兼係長 高橋 勝
視察日	平成29年12月8日
視察先	福島県福島市西中央4丁目49 株式会社EM研究機構 研究部兼復興支援プロジェクト
出席者	工学博士 奥本秀一

2. 視察内容

視察項目	放射能廃棄物の処理について
視察内容	<p>大崎市の現状と住民が不安視している課題について「農林業系廃棄物の試験焼却に関する説明会資料」と「こどもを放射能から守る会」が発行した意見広告チラシを基本に、東日本大震災による原発事故直後より福島県内において放射能低減化に取り組んできた活動内容と経過・経験から、大崎市が取り組む事業について助言を求めた。</p> <p>1) 放射性廃棄物の試験焼却について 線量にもよるが廃棄物は焼却により減容化する。しかし焼却灰の濃度が高まる事が考えられる。よってその焼却灰の最終処分については拡散しないような方法を検討すべきである。焼却施設での注意事項としてバグフィルターはばいじんの拡散防止に有効だが排ガスの空中線量は減量しない事から焼却物の濃度や焼却の量に注意すべきである。焼却よりすき込みによる処理を推奨いたします。</p> <p>2) すき込みについて 震災後直後から民間による取り組みについて多くの実践例がある。詳細はプロジェクト事例集を一覧していただきたい。共通して言えることは汚染土壌等に大量の有用微生物群を定期的に散布することにより土壌中の放射性セシウムの農作物への移行抑制効果試験と放射性セシウム濃度の調査を実施してきたのを皮切りに、農地における放射能汚染低減化に取り組んできた。2011年5月から取り組んできた経過の中で抑制効果が確認されたほか、有用微生物群で発酵処理した有機物の土壌への施用で放射性セシウムが理論上の減衰値よりも大きく低下するなどの、効果を上げてきた。セシウムは粘土質の土壌において廃棄物を有機物として土壌改良資材としての有用微生物群と併用してすき込むことにより作物へ移行防止されている事例を参考にしていきたい。</p> <p>しかし、同一場所へのすき込み量や回数について制約がある事から関係機関と協議を重ねて改正を働きかけて実施してみてもどうか。</p> <p>以上、現地で取り組んで来た経験より専門的な識見から助言をたまわりました。ただ残念なこととして政府等がこの活動実績に対して高く評価する事を避けて復興事業を進めている点と、民間団体等により全国各地から寄せられた善意の輪の支援等により継続している事実を多くの国民に知られていない、正確に報道されない矛盾点を強く感じた内容でありました。</p>
他会派との 合同実施	

会派広報広聴活動報告書

大崎市議会 政務活動概要報告書
平成30年 / 月 / 日 提出

1. 活動概要

会派名	木下正之市民会議
会派長	相澤浩弘、相澤久美
活動項目	議会報告書作成・配布

2. 活動内容

	<p>議会報告書作成・配布 平成30年1月5日～1月25日 議会報告書作成・配布 新庁舎建設に関する報告・市内29,760枚印刷し、配布した。</p>
--	---

以上